98.4%

早期リハビリテーション a.脳梗塞患者への早期リハビリ実施率

Process

測定値の定義・計算方法

分子： 分母のうち、入院後早期（3日以内）に脳血管リハビリテーションを実施した患者数

分母： 18歳以上の脳梗塞の診断で入院した患者数

活動のきっかけ

脳卒中患者では、早期にリハビリテーションを開始することで、機能予後を改善し、入院期間を短縮させることがわかっている。脳卒中ガイドラインにおいても発症48時間以内の介入が条件付で推奨されている。従って、適応のある患者に対して早期にリハビリテーションが開始する体制の構築が必要であり、他病院とのベンチマークを行い、実施体制の構築に向けて取り組む必要がある。

改善活動部門

- リハビリテーション部

考察

上手くいったこと	課題と感じたこと
• 脳梗塞患者119件のうち116件に入院後3日以内のリハビリテーション介入を実施し、年間実施率97.5%と目標値95%を達成した。 • 診療科カンファレンスや早期離床リハビリテーションチームによるラウンドを通して、リハビリテーションの適応を確認し、早期介入につなげる体制を継続することができた。 • 診療科と連携し、患者の全身状態や治療方針を踏まえながら早期リハビリテーションを提供する体制が定着している。	• 年間実施率は目標値を達成したものの、重症例では全身状態等の影響から入院後3日以内の介入が困難となる症例がみられた。 • 重症例については、患者の状態や治療方針を踏まえたリハビリテーションの適応および介入時期を多職種で検討する必要がある。 • 今後も未介入・介入遅延事例を個別に振り返り、適応のある患者を可能な限り早期にリハビリテーションへつなげる体制を維持・強化していく。